



先日「こんなところに日本人」とかいう番組で、スイスに在住の日本人女性が言っていたことに、共感を覚えた。日本では主に与えられたものを使うことで生活が成り立っていくが、こちらでは自らの工夫と、自らの行動によって生活が成り立っていくのだと。その広大で美しい自然に囲まれての生活に日本にはない、何か豊かなものを感じとることができた。

もちろん日本にも日本独特の原風景として残っている村落も数多くはあるが、どこも過疎化が進み、寂れた感の強いのが現状となっている。

豊かってなんだろう？この番組を観るたびにそう思う事が多くなってきた。かゆいところに手が届く日本の一流のサービス心？がアイデアを生み、技術となって経済を豊かにし、お金があれば大抵の不自由さは解消できる社会となってきている。安定は好まれず、むしろ成長することのみに重きがおかれた社会構造の仕組みに、現代人は今も振り回されていっている。

立ち止まって考える暇もなく、生き続けなければならぬ悲しい人生に、スイスで生きる一人の女性の姿が、「何のために生きているの？」とのメッセージとなって届いた気がした。

## 報恩講

十一月十四日(日)



本年も『宗祖親鸞聖人』の命日を「勝縁に「報恩講」を厳修いたします。本年も台風やその豪雨による災害、また御嶽山の噴火と多くの自然災害が発生し、多くの方々が犠牲になりました。本年報恩講におきましても、犠牲になられた多くの方々を憶念し、共に念仏申す身となってお勤めしてまいりたいと思います。多くの方々のご参詣をお待ち申しあげます。

合掌

如来大悲の恩徳は 身を粉にしても報ずべし  
師主知識の恩徳も 骨をくだきても謝すべし  
恩徳讃

**法要日程**

午前 十時 速夜法要  
御俗姓拝読  
法話

おじき

午後 一時 日中法要  
御伝鈔拝読  
法話

**門信徒総会 十五時**

次第  
責任役員挨拶  
議事

- 一 本年度行事報告
- 二 本年度決算報告
- 三 本堂修復御遠忌決算報告
- 四 次年度事業計画
- 五 次年度予算
- 六 その他

今年最後の学習会となります。

八日(土)です。毎月第二土曜日 七時より

若院法話

十分程度

学習内容

法話の感想や意見

座談会

一年を振り返りながら、日々の思いを語り合いたいと思います。

たいと思えます。

お磨き

十二月五日(金)

今年も皆様のご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

光受寺学習会に参加させていただくようになって半年経ちました。

七月からは、僭越ながら皆様の寛容な御心に甘んじて、法話にもチャレンジしております。まだまだ、人前で話すのは苦手ですし、もしかしたら若造が偉そうにと思われる方も居られるとは思いますが、何か皆さんを諭すようなことを話したいわけではなく、少しでも仏教、真宗をわかりやすくお伝えできたらという思いでやっています。

私が今こうして親鸞聖人の教えに出逢えたのは、これまで光受寺を支えて下さった御門徒さん一人ひとりのお陰です。しかし、私がお寺を離れて会社勤めをしていた十年余りの間に、何の恩返しも出来ないまま何人もの御門徒さんがお亡くなりになりました。私に出来る唯一の恩返しは、出逢わせていただいた親鸞聖人の教えを、皆さんへお伝えすることしかありません。それが僧侶としての務めであり、そして亡くなられた御門徒さんへの恩返しにもなればと思います。

人間的にも人生経験も未熟な私です。むしろ皆さんから教わることの方が多いのですが、私も親鸞聖人の門徒の一人として、皆さんの姿勢に学び、皆さんと共に親鸞聖人に学びながら、限りある人生を心豊かに生きていきたいと願います。

合掌

光受寺の歴史を学ぶ

本山奉仕団  
担当補導さんより

(文面そのまま)ご紹介いたします。

今回は光受寺の皆さんと語り合う時間をたまり、誠にありがとうございました。

“念仏の生まれる生活をともに”ということが現にあらわれ、姿となった奉仕団だと感じました。ご自坊での教化の姿勢も大変勉強になりました。

自分自身のかかえるかなしみへの気づき、その大切さもご住職から教えていただきました。奉仕団に参加された皆様のあたたかさに支えられた一日間でした。

本堂(内陣)最後の改修工事

本堂向かって左。御代前の金箔張替作業が始まりました。当寺では慧燈大師 えとうだいし 本願寺第八代の蓮如上人の絵像が掛けられています。明治十九年(二十一代)蔵如上人時代)本山よりご下附いただいたものです。慧燈大師の名は明治天皇からの諡号(いごうごう)です。生前功績のあった者に送られる名だそうです。明治十五年



剥がし終えて下処理が終る。



剥がされた金箔の紙の山

これから思う

光受寺を日常的に関わりのもてる寺に出来ないかと住職は常々考えています。このことは今新たに思いついたことではなく、住職に就任したころからの願いでもありました。寺の活用をもっと幅広く考えていきたいと思っていますし、何より気軽に親しみを持っていただける寺の実現ができれば本来の寺の姿に近づけるのではないかと考えています。

皆さんの思いやお考えをお聞かせください。



光受寺の歴史を物語っていた満天星つじが枯れ始め、見るも無残な姿になってしまいました。

改修工事の際、基礎工事で深く土を掘り起こし、根を痛めたのではないかと思われませんが、定かではありません。

老木ですので、環境の変化についていけず病気が出たのかとも思われます。